

1 全国学力・学習状況調査の実施状況

(1) 調査内容

① 調査科目

小学校（第6学年） 国語A、国語B、算数A、算数B

中学校（第3学年） 国語A、国語B、数学A、数学B

② 学習状況調査

学校質問紙調査

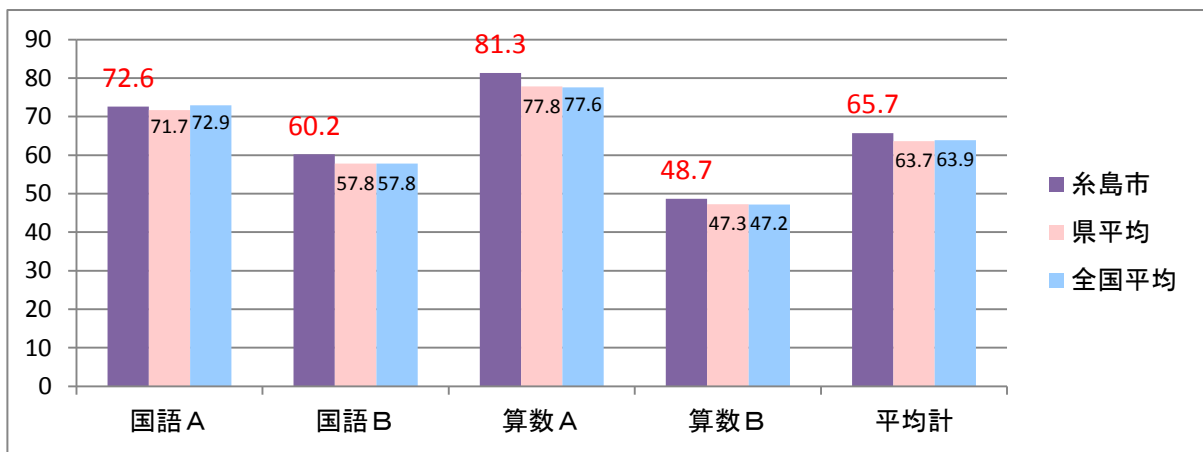
(2) 参加状況（代表値：国語A）

小学校 全国：1,021,905人 福岡県：42,969人 糸島市：935人

中学校 全国：996,188人 福岡県：42,046人 糸島市：894人

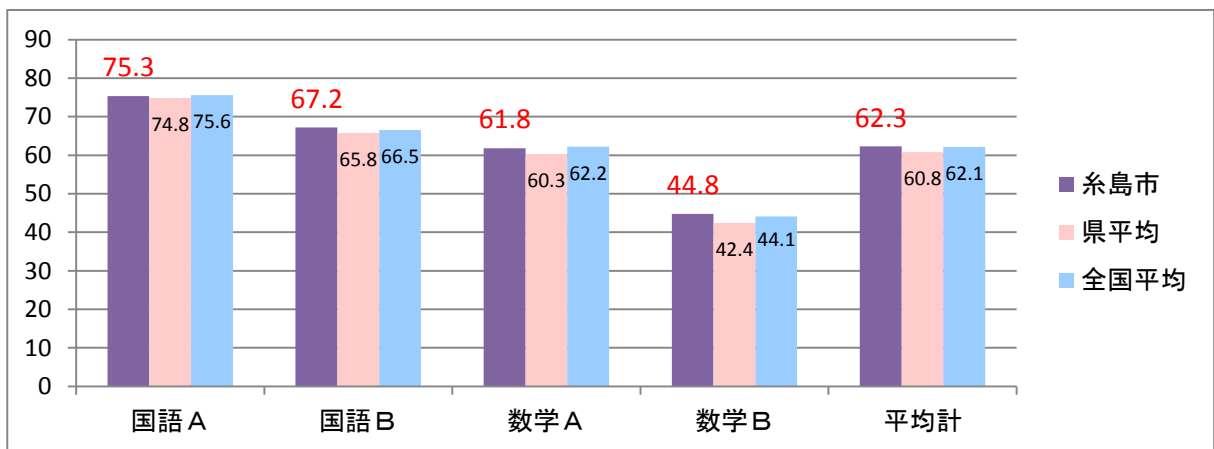
2 平均正答率からの分析

(1) 小学校



□ 国語B、算数A・Bで全国平均を上回り、平均の合計でも全国平均を1.8ポイント上回った。

(2) 中学校



□ 国語B、数学Bで全国平均を上回り、平均の合計でも全国平均を0.2ポイント上回った。

3 生徒質問紙からの分析

(1) ゲームや携帯・スマホの時間について

- 小中学校ともに、全国平均と比べ、「1日の使用が2時間以上」という児童生徒の割合は少ない。
- 小学校で5.5%、中学校で13.4%が1日3時間以上、スマホ・携帯等を使用している。

(2) アクティブ・ラーニングや活用問題に係る「話し合い」や「協働的な学習」について

- 小学校では、通常の授業において、「主体的・協働的な学びへの実感」に関わる質問において、全国平均より低い。
- 中学校では、生徒が自治的な取組（学校行事や生徒会活動）の成果を実感しているが、通常の授業では、「主体的・協働的な学びへの実感」に関わる質問において、全国平均より低い。

(3) 家庭学習について

- 小中学校ともに、自分で計画を立て家庭学習に取り組む児童生徒の割合が、全国平均よりも低い。
- 小中学校ともに、家庭学習で予習をしている児童生徒の割合が、全国平均よりも低い。
- 家庭学習の時間を、2時間以上とっている児童生徒の割合について、小学校は全国平均より低く、中学校は全国平均よりも高い。

(4) 自尊感情等について

- 小学校は、全国や県平均と比較して、「自分には、よいところがある」と答えた児童の割合が低い。
- 中学校は、全国や県平均と比較して、「自分には、よいところがある」と答えた生徒の割合が高い。
- 小中学校ともに、全国や県平均と比較して、「学校が楽しい」と答えた児童生徒の割合が低い。

4 分析結果から見えた糸島市の課題

- 短答式・記述式問題において、語彙力に課題が見られる。
- 複数の知識を組み合わせる解く問題や、複数のテキスト（文章、図、グラフ、資料等）から必要な情報を取捨選択し、場面や状況に応じて適切に表現する問題について課題が見られる。
- 主体的・協働的に学ぶ授業づくりについて課題が見られる。
- 児童生徒の自尊感情に課題が見られる。
- 家庭学習の時間確保や学習習慣の定着には成果が見られる。
一方で、家庭学習の内容や方法に課題が見られる。

5 学力向上における今後の取組について

糸島市学力向上プラン「課題解決のための5つの方略」に基づいて取組を行う。

(1) 各学校における学力向上推進

- ① 課題及び要因についての分析と「学力向上に向けた取組」の作成・改善
- ② 効果的な取組の確実な実施
 - ・ 全教科・領域における「書く」「話す」活動の強化を図る授業改善や指導の徹底
 - ・ H19～H27 までの過去問題の活用（重点1）
 - ・ 土曜や夏期休業中の補充授業の確実な実施

- ③ 課題校への調査と指導主事の巡回指導による取組の把握
- ④ 学習習慣定着事業による放課後学習の確実な実施
- ⑤ リレー読書や読み聞かせなど、各学校の創意工夫による読書活動の推進（重点2）

(2) 学力向上研修の実施

- ① 言語活動を積極的に取り入れた授業実践の推進（重点3）
 - ・「書く」「話す」等のアウトプットを行う活動の段階的指導に関する研修を全校で実施
- ② 教務主任会に対する学力分析ツール活用研修の実施と結果の集約（重点4）

(3) 家庭・地域の連携強化による家庭学習の推進

- ① 家庭学習リーフレットの配付と家庭での学習方法や内容の強化
- ② コミュニティ・スクールやPTA活動と連携した補充学習の推進
- ③ 土曜授業による学力向上策の確実な推進（重点5）

(4) 各校の改善に関する指導の徹底

- ① 「学力向上に向けた取組」の集約
- ② 「学力向上に向けた取組」の進捗状況調査
- ③ 「学力向上に向けた取組」の評価・改善
 - 次年度の学力向上プランへの反映